

おれんげニュース

No318

2016年9月号



英岩(有田)

2016年	9月	10月	時間	場所
専門部会	13日(火)	11日(火)	13:30~15:30	西諫早公民館
全体集会	28日(水)	26日(水)	19:00~21:00	

9 月

月例山行案内

部	技術研修部	山行部	自然保護部	ひまわり山行部
月/日(曜)	9/11(日)	9/18(日)	9/25(日)	9/30(金)
山名(行事)	星生山/久住山	万年山	金比羅山	矢岳
地 図	湯坪・久住	豊後中村	長崎	雲仙
集合場所	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫 早 駅 8:46 西諫早駅 8:49	西諫早駅 8:00
難 易 度	体力 2 / 技術 1	体力 2 / 技術 1	体力 1 / 技術 1	体力 1 / 技術 1
帰着時間	19:00	19:00	17:00	17:00
歩行時間	6.0h	5.0h	2.5h	3.0h
交通手段	マイクロバス	マイクロバス	J R	マイカー
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉	有り	有り	無し	有り
参加費	5,000	5,000	実費	2,000
申込期限	9/4	9/11	9/20	9/22
集 約	山下ちづこ	田村	山口	林孝子
備 考	九重山群のシンボル	360 度の大展望を満喫	クリーンハイクをします	雲仙の山が展望出来る

10 月

部	自然保護部	ひまわり山行部	技術研修部	山行部
月/日(曜)	10/8(土)	10/21(金)	10/23(日)24(月)	10/29(土)
山名(行事)	国見山/八天岳	富川溪谷、高峰展望台	烏ヶ山、象山、擬宝珠山	福知山・鷹取山
地 図	蔵宿 (佐世保)	多良岳 (諫早)	伯耆大山(鳥取県)	徳力、金田(福岡県)
集合場所	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	西諫早駅 8:00 諫早駅裏 8:10	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30
難 易 度	体力 1 / 技術 1	体力 1 / 技術 1	体力 1 / 技術 2	体力 1 / 技術 1
帰着時間	17:00	15,30	21:00	19:00
歩行時間	4,0h	3,0h	23 日 1,0h 24 日 4,0h	5,0h
交通手段	マイクロバス	マイカー	マイクロバス	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	日帰り	休暇村、奥大山	日帰り
温 泉	有り	無し	無し	有り
参加費	3,500	1,500	2,000	5,000
申込期限	10/1	10/18	10/15	10/22
集 約	山口	林 孝子	山下ちづ子	田村
備 考	佐世保と伊万里の県境	溪谷の自然にひたる	錦繡の紅葉彩る山	山頂からの眺めは圧巻

レスキューの重要性

セルフレスキューの心得があれば慎重になると共に、心に余裕が出来冷静な判断が出来るようになり、事故予知能力が身に着き事故を未然に防ぐことができます。

即ち、事故を起こさないための啓蒙活動でも有る訳です。

また起こした場合、迅速に救助活動ができるように訓練をしておくものです。

オレンジハイキングでは、2009年より月1回セルフレスキュー訓練を行ってきました。

基本となるロープワーク、ハーネスの作り方、ロープによる懸垂下降・上昇、引上げ方法、各種救助、搬出方法、新しい登攀器具の使用方法など、また、夏は沢で沢の渡り方などを繰り返し行ってきました。

と言うと、そんな難しい危険な山には行かないから必要ないと多くの人が言います。しかし低山でも山に入れば危険はいっぱいです。

せめて基本的な1種類のロープワークとハーネスの作り方を全員が覚えたらきっと役に立つと思います。

なお、これまでセルフレスキューと呼んでいた救助方法が、最近では、皆で力をあわせて救助することからコンパニオンレスキューと呼ばれているらしく、今後はコンパニオンレスキューと称する事になりました。しかし自らの安全を図るセルフレスキューで基本的な4つのロープワークをマスターする事が手始めであると思います。其々のレベルに合わせて練習しますので、とにかく参加してみましよう。

なお、9月、10月のコンパニオンレスキューは次の通りです。

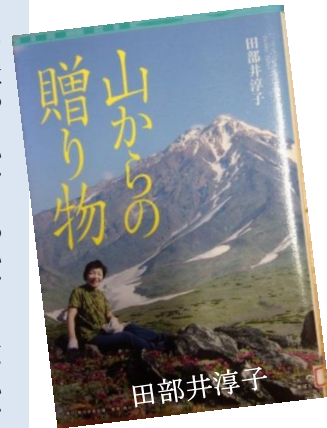
9/24(土)、10/22(土) いずれも9:30 西諫早駅に集合(簡単な山行の装備です)



山はつらい、きつい、きたない、
と思っている人は、行かず嫌いで
ある。実際に行つて見れば、「こん
なすばらしい風景見たことない、
もっと早く来れば良かった」と思
うに違いない。……

山ははじめてだから手近な所で
練習してゆこうと低山に出かける
のは悲劇だ。夏の低山は暑いし見
通しがきかず、アブや蚊がいて、
汗まみれで、山は嫌いだ、となる。
ゴンドラやケーブルを利用して
いきなり一五〇〇メートル位の中
腹に着ける山がおすすだ。……

始めから頂上を目指さなくても
いい。周辺のお花畑を散策するだ
けで気分爽快。山頂へ続く道を見
れば……よし次は山頂まで行つて
見たい、とおもえるはずだ。



オレンジ 納涼会

9/3(土) 17:00(開宴 18:30)～ いこいの村長崎

3,000円(会からの補助有、日本酒・焼酎類持込可)

マイクロ送迎(16:00 諫早駅、西諫早駅、他適宜)

17:00～18:10 まで風呂などでごゆっくりどうぞ

申込み：中野美津子



羅白岳 斜里岳 雌阿寒岳

7月10日～7月14日



ウコンウツギ



イワウメ



エゾノツガザクラ

山下さんと2人で北海道のツアーに参加した。

羅白岳(1661m)は標高差1,441m10時間の行程に不安感があった。

レイン着用で小雨けぶる樹林帯を登り、大沢雪渓ではアイゼンの着用品が2回あったが、オレンジで習得しているので2人は難なく出来、快適に雪渓を登った。山頂直下の岩稜帯も無事通過。山頂は風が強かったが、今までのガスが一瞬晴れ視界が開け国後島も望めた!! 斜里岳は青空一色。



エゾコザクラ



サルマイソウ

登山口の熊出没の看板にヒヤリ! 一の沢を7回以上の渡渉でドボンと水の洗礼を受けた人もいた。羽衣の滝、霊華の滝など次々に現れる滝を眺めながらロープに掴まり滝を渡り、最後は胸突き八丁のガレ場の急登をゆっくり登り山頂へ。道東の山々が一望でき、昨日登った羅白岳もハッキリ見えた。下りは展望雄大な稜線歩きを楽しんだ。雌阿寒岳は残念ながらガスって視界がなく、硫黄の匂いと音で荒々しい活火山を実感。

長時間に及ぶ行程、雪渓、沢渡渉、岩稜とあったが終えてみたら変化があり楽しかった。今回の登山で携帯トイレを初経験した。携帯トイレブースも初めてだった。

九州の山では厳しくなく、アルプスでも山小屋の充実などで使用することがなかった。

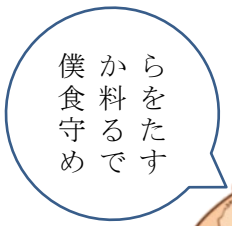
そこで山のトイレ問題を参考資料(日本山岳会)のもとに今一度考えた。

- ・山はもともと動物や植物たちの生活の場であり、登山者は侵入者であることへの自覚。
- ・一人一人が自己責任のもと自然に負荷を掛けない山歩きをする。
- ・“紙”はすべてもち帰る。
- ・まず麓で用を済ませる。山中では沢や水辺から出来るだけ離れ、水場の上流は絶対避ける。

(20～30m離れる)植物が生い茂って落ち葉があり、雨水で流失の恐れがない地点。

登山者のマナー、小さな心遣いで楽しい登山を続けましょう!

(田中 静香)



フードボックス



熊見峠より斜里岳を望む

7/19~22 花の尾瀬ヶ原 & 一ノ倉

行程 沼山峠(尾瀬入山口)~大江湿原~尾瀬沼~尾瀬見晴~(尾瀬ヶ原縦断)~ヨッピ吊り橋~鳩待峠

ひとり言 遠い昔、訪れた尾瀬に今一度行きたくてツアーに参加した。花の尾瀬を期待していたけど、残念ながら今年は全体的に早く咲きニッコウキスゲの群落は見られなかった。しかし、目の前に至仏山を仰ぎながら広々尾瀬ヶ原を歩いただけで十分満足出来た。花も約 50 種咲いていたような・・・今度は山に登りたいと思った。(高森)



どこまでも続く木道



沼に映るやま



野あざみ



歩荷さん



吹割りの滝

谷川岳一ノ倉



7/24 西山(鮎坂山)

参加者 中須賀、鎗水、大久保、高田、
中里、工藤、福岡、山下ち、
田中し、高森、宮崎、林和

行程 西諫早 6:30=金立 SC=福岡
IC 8:10=県道 21 号線=西山
登山口着 8:40/9:00~鉄塔~
犬鳴山・西山分岐~菰野峠
10:30~西山山頂 11:00/11:20
~菰野峠 11:30/12:00(昼食)~西山登山口=脇田温泉=福岡 IC=西諫早 16:00



登山概要

登山口より倒木の為迂回コースの標識があり、それに従って登山開始する。スタート直後より「犬鳴・西山分岐」まで胸突き急登の連続で落葉に覆われ踏み跡ははっきりせず、リボンをたよりに進む。「犬鳴・西山分岐」から、一変急坂を下り広々とした鞍部に当たる「菰野峠」に到着した。これから登り切ると自衛隊専用道路に飛び出し、西山(鮎坂山)に到着した。玄界灘と、北九州市街が一望でき、展望は素晴らしい。唯一出会った登山者から「司書橋コース」は多量の倒木あるが下山可能の情報を得て、計画を変更し司書橋コースを下山することとなった。途中倒木等により行く手を阻まれるが、逆にサバイバルコースとなり、面白い下山となった。(偵察時に役場等への確認の大切さを痛感した)

一言感想

- * 低山なれど侮るなかれ!!
急登続きで疲れました。
- * 山には冒険あり、面白かったね。
- * 初めての山、急登にあえぎ、下りの倒木を越えたり、潜ったりと思いの外楽しかった。
- * トニカク、暑かった。
汗を 1.5L 位出した。頭、胸、腹、大腿部水浸しで早く下りたかった。北九州にこんなに奥深い山があるとは、感銘!! 山頂からの眺めは良かった。しかし、ここは、自衛隊の基地の一部だった

菰野峠で昼食



8/5(金) 檜原, 亀岳, 笛岳



参加者 兵庫、佐原、山下ふ、松岡、山口、田中し
川内、松田、小山、下釜、林た、林田 (12名)

行程

(往) 諫早駅裏 6:50～西諫早駅 7:00
～佐賀大和 IC 8:00～(川登 SA で休憩) 8:20
～亀岳登山口 8:55/9:05～亀岳 9:30
～登山口 10:10～檜原湿原 10:20/11:05
～笛岳登山口 11:20～笛岳 11:45(昼食)
12:20～登山口 12:45～観音の滝 12:55/13:20
(復) 観音の滝 13:20～熊の川温泉 1440～西諫早
16:05



笛岳にて昼食後

登山概要 猛暑の時期、亀岳も笛岳も車でいけるところまで行き登山時間の短縮をはかり、楽々登山とした。檜原湿原では途中から管理委員？がガイドをしてくれ。普通は見つけにくい絶滅危惧種や食虫植物等を教えてもらうことができ。非常に有意義であった。
笛岳山頂のピラミット型構造物は頂部が崩壊していた。日本百選に選ばれている観音の滝はさすがに壮観であった 檜原湿原の観察は望遠レンズや双眼鏡が必要。

一言感想

- ・初めての SL をして、緊張し危うく道間違いしそうでした。
- ・天気も良く、低山で湿原の植物も楽しめて、よかったです。
- ・今日は本当にひまわりらしい安心、安全な山行でした。
- ・湿原を双眼鏡もって、ゆっくり目線を低くして廻りたい。サギ草初めて群生あえてよかった。
- ・それほど、きつくなく、しかし汗はきちんとだし檜原湿原珍しい植物や繊細なトンボに出合い、係の人から回るのが早いと言われたが、ゆっくりといい山行でした。
- ・病後 2 回目の山行亀岳では登りは前から、下りは後ろからロープで引っ張ってもらった。オレンジの人に助けられ感謝でいっぱいです。



観音の滝



サギ草



コマキボウシ



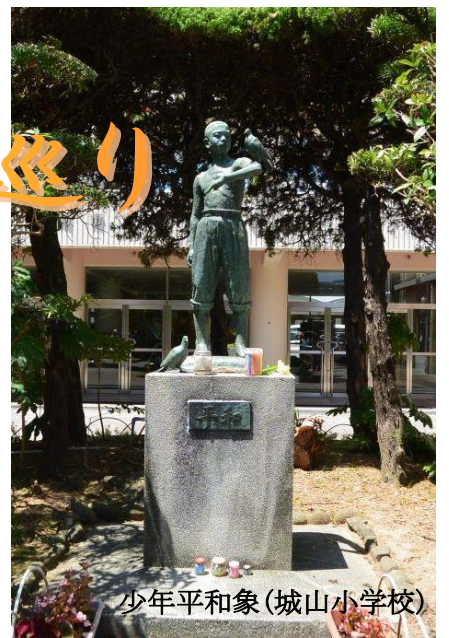
すいれん



ガマの穂



原爆公園で黙とう(原爆落下中心地)



少年平和象(城山小学校)



浦上駅で出発式

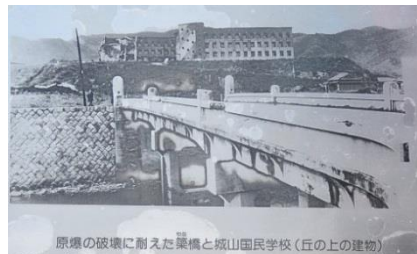
参加者：中須賀、高田、林(和)、高森(+孫)、山下(ち)、松岡、鎗水

コース：浦上駅～NCC～原爆病院～西洋館裏～原爆公園～旧駒場町～城山小学校～八幡神社

ひと事：長年長崎に住んでいても、殆ど知らない事ばかり。街の成り立ちや町名の根拠、町の陰に点在する原爆の遺跡。良い勉強になった。ただ、公園化された遺跡以外は片隅に追いやられている感じ。もう少し行政は保存に配慮するべきではないかと思った。



現在の築橋



原爆の破壊に耐えた築橋と城山国民学校(丘の上の建物)
爆風に耐えた築橋と城山国民学校



耐えた城山国民学校の一部



被災者で埋まった浦上川も今は穏やかな流れに



浦上川沿いの慰霊碑



城山小学校の下の防空壕跡



城山小学校の永井坂

8/11 (木)立花山&三日月山



参加者

松岡、田村、高森、大寶、佐原、田中し、
鎗水、福岡、山口、工藤、山下ち、林孝、
佐藤、中里、中野

行程

(往) 諫早駅裏 7:20~西諫早駅 7:30~
下原バス停 9:30~三日月山 10:35~立
花山/昼食/清掃 11:40/12:00~梅岳寺~
小学校前 14:20~立ち寄り湯 15:30

(復) 立ち寄り湯 16::30~西諫早駅
17:50~諫早駅 18:00

登山概要 (「福岡県の山」参考)

下原バス停から森林浴コースを歩き、福岡市街の展望のよい三日月山を経て、立花山に至る。昼食後クスノキの原生林や屏風岩を眺め、立花小学校に出て、立花城主に関わる史巡りを行う。夏にふさわしい木立の中の縦走である。今年から休日になった「山の日」の山行で、各自が目についたゴミを拾いながらの自然保護活動を行いました。



91歳の山ガール、NBCテレビに出演

私たちオレンジの目標の佐原さんが山の日を記念してご高齢でもなお元気に山登りを楽しんでいる姿をNBCテレビが密着取材しました。



クルー4人が三日月山、立花山に同行し、時には佐原さんになかなかフーフー言いながらの取材でした。放映は8月18日9時50分のアップルでありました。

一言感想

*さすが山の日、登山者の多い三日月山、立花山は木漏れ日の道と頂上からの展望が最高でした。

*NBCのリポーターの若いお姉さんと賑やかに登った立花山は最高でした。

*今日は佐原さんが主役。それにふさわしく堂々とした足取りでした。今後も佐原さんに元気でいてほしいです。

*テレビ取材は初めての経験でなんだか主役じゃないのにワクワクして爽やかな一日でした。佐原さん「バンザイ」でした。これからもご一緒してください、佐原さん!



2016 第8回 諫早大水害を語り継ぐ ～7月25日を忘れない～

この体験記は福岡県糟屋郡にお住まいの橋間袈裟雄さんから昭和五七年に西日本新聞社に送られてきたものです。今年(平成二八年)三月「本命川を語る会」の人と国交省の人が昭和三二年七月二五日に起こったあの大水害の痕跡や資料を探しているときに菱屋旅館で探し出しました。

菱屋旅館は大水害で流されたそうですがその時の写真が額縁に飾られていたので、その写真を間近に見ようとして額からはずしたところこの体験記が出てきたそうです。以下の分は全文を載せるには余りにも長すぎるので半分くらいに短くしています。

本明川は川幅が広げられ、深さも掘り下げられています。昭和三二年級の雨が降ればやはり氾濫すると国交省の人は言っています。とにかく本明川は日頃は「母なる川」と呼ばれるように穏やかに流れていますが急流で多良岳のほうで水が出だすと街中には三十分で到達するとのこと。雨のときの警戒は怠れないということでした。

樹に登って助かった諫早水害体験記

当時日本通運長崎支店の営業係長だった私は、7月25日午後、出張で諫早を訪れその夜、本明川のほとりにある菱屋旅館に同僚とともに宿をとりました。雨が白い水玉のようになって路面をたたき川は水かさを増し、大きなうねりを見せてくだっていました。左側はこの旅館の前を通る道路となっています。右側の川辺には3本のエノキがたっていました。尋ねてみると川上のほうから1本は樹齢30年以上、次は15年ぐらい、前の大きな木は300年ぐらいの大木です。雨はなかなか止みそうにもありません。それどころかだんだん激しさを増しているようです。

午後7時半ごろ旅館の従業員が走りこんできました。「お客さん大変です。履物がみんな流れています。すぐ来てくださーい。」悲鳴だ。私はすぐに階下へかけていった。左側の玄関から濁流が流れ込み右へ右へと流れています。すでに床下は浸水しています。

午後8時半ごろ、諫早営業所から「諫早橋に濁流が激突し、橋が切れそうだ」という電話があった。部屋の電灯も消え、真っ暗闇。ごうごうたる濁流の音。稲妻が光ったときだけ視界が明るくなる。道路もすでに川となったのかワラ屋根の流れていくのが瞬時に見える。また右側の川の中央では屋根にのった若者が懐中電灯を大きく振り回し「助けてくれー」と叫びながら急流に流されていく。どうすることもできない。

午後9時ごろ、女将が部屋に駆け込んできた。「階下はもうだめです。だんなさん、どうしたらよいでしょう、どうかみんなを助けてください。どうかお指図を」と女将の髪は乱れ、必死の様相だ。「大丈夫ですよ。いよいよというときはあの300年の大木に移りましょう。大丈夫ですよ。絶対に助かりますよ。」といいながら自分を落ち着かせるように座った。同僚は立ち上がって暗い外を見ていた。女将や、宿泊客の必死

の願いで私はみんなを指図することになった。身を挺して、どんなことをしてもみんなを助けねばならないと痛切に思った。私は瞑目し合掌した。「神よ、皆を助けたまえ、われにその力を与えたまえ」と一心に祈った。そして「みなさん、今しばらくしたら、この大きな木に移ります。」とは言ったものの、今しばらくしたらどうなるのだろう。私にはわからない。一心に祈った。どれほどの時がたったかわからない。ほんの一瞬であったようで



水害前の菱屋旅館

水害後の菱屋旅館
エノキの大木は3本あったが
2本は流された。この1本に
39人の命が助けられた。



もある。
私は目を開けた。
と……見よ……、
二階のひさしと
大木の間には流木
が重なり、橋が出
来ていたのである。
私はとっさに

言った。「さあ、みなさん、あの木に移れますよ。橋が出来ましたよ。若い人、元気のいい人から木に移りなさい。さあ、早く移りなさい。」と若者を先にやった。というのは若く、元気なものは上へ上へと登ってくれるので、あとに続く女性や子供たちが移りやすくなるのだ。横に立っている30年の木をふと見ると4人が登っていた。私は「その木は危ない。こちらに移りなさい。」と数回声をかけたが返事がない。4人はどうしても移ってくれなかった。その間に旅館が倒壊し、屋根が眼下に横たわっていた。暗闇の中にほのかに見える30年の木の人たちが気にかかるがどうしようもない。こちらの大木にはまだ余裕があるのに。誠に残念である。しかしこちらにはよくぞ老若男女40人近くの人たちが移ったものだ。

私は水にぬれたせいかな寒気がして、がたがたと震えていた。ふと下を見ると木のまたのところに若い女の人が幼子を二人抱いている。足元にはしぶきがかかっている。「奥さん、危ない。子供さんを一人こちらに渡しなさい。私が責任を持つから」と声をかけた。静かに引き上げて抱いた。3歳くらいの男の子でしっかり抱きついてきた。寒さに震えながらも私もしっかり抱きしめていた。この子は最後まで……絶対に守らねばならぬ。

濁流はますます狂気を加えてきた。大木が大きく揺れる。泣き声の混じった悲鳴も聞こえる。悲鳴と共に上のほうに登っていた人たちが下に降りてくるようだ。皆木の枝にしがみついている手や頭に上のものの足が重なったのか悲鳴が大きくなる。30年の木が音を立てて、根っこを見せた。大きなうねりを見せて流れていった。あの4人の姿はない。いや、流されていく姿が見えたのだろうか祈るような声が聞こえた。またこちらの大木が大きく揺れた。次はこの木だと思えて、悲鳴がひときわ大きくなった。上のほうの枝が折れて飛んだのかバシーッと音がした。悲鳴が続く。泣き声も続く。「みんな、しっかりしろ、大丈夫だ、この木は大丈夫だ。必ず助かる。皆声を出してがんばろう。さあ、声を出して」私は声にならない声を出して叫んでいた。そして神に祈っていたのである。

しばらくして悲鳴もなくなり、静寂がきた。雨も止んだ。流れも引いたように感じられる。空も少し明るくなった。時間はわからない。しかし、7月26日の夜明けのようだ。静寂は続いている。私はふと木の下を見た。水はないようである。

濁流は引いたのだ。助かった。もう大丈夫。「みなさん下を見て。水が引いている。足元が見えますか。大丈夫ですか。」私は声をかけた。「さあ、下から一人ずつ手をとって降りてください。降りたら両手をつないでいきましょう」ここまで助かったのだ。一人でも事故者を出してはならない。私は両手をつないで危ないときは両方から引っ張るようにと声をかけた。一同は諫早駅とは反対にある学校の校庭にたどり着いた。皆、悪夢からさめたようにホッとしていた。老人、子供、女性を含む老若男女39人、ほとんどがお互いの名前も知らない宿泊客でした。

(中野 記)



おれんじカレンダー

日	9月		10月	
1	木		土	10/1(土)～2(日)で県連登山フェスタ
2	金		日	国立青少年の家(諫早市)
3	土		月	
4	日		火	
5	月		水	水曜登山
6	火		木	
7	水	水曜登山	金	
8	木		土	国見山、八天岳(自然保護部)
9	金		日	
10	土		月	体育の日
11	日	星生山、久住山(技術研修部)	火	専門部会(13:30～15:30)
12	月		水	水曜登山
13	火	専門部会(13:30～15:30)	木	
14	水	水曜登山	金	
15	木		土	
16	金		日	
17	土		月	
18	日	万年山(山行部)	火	
19	月	敬老の日 彼岸入り	水	水曜登山
20	火		木	
21	水	水曜登山	金	富川溪谷、高嶺展望台(ひまわり)
22	木	秋分の日	土	コンパニオンレスキュー
23	金		日	伯耆大山山系(技研研修部)
24	土	コンパニオンレスキュー	月	(烏ヶ山、象山、擬宝珠山)
25	日	金比羅山(自然保護部) 清掃登山	火	全体集会(19:00～21:00)
26	月		水	水曜登山
27	火		木	
28	水	水曜登山、全体集会(19:00～21:00)	金	
29	木		土	福智山、鷹取山(山行部)
30	金	矢岳、(ひまわり山行部)	日	
31			月	

発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡 正廣
編集委員	鎗水律夫、中野美津子、林孝子、林和子、 田中静香、高森陽子、兵庫芳隆
発行年月日	2016/08/24
財政担当	
郵便振替口座	
ホームページ	http://orangehikingclub.com